

# 平成 26 年度 第一部会技術分科会 活動報告 (概要)

平成 27 年 6 月  
一般社団法人 日本消火装置工業会

## 1. 委員会

### (1) 委員構成

16 社 17 名で構成

### (2) 開催回数

定例会 (原則 1 回/月) 8 回 + 合同委員会 1 回 = 計 9 回 ※定例会は 4 回休会

## 2. 審議・確認事項

### (1) 有床診療所等に対するスプリンクラー設備の基準の検討 (H25. 12~H26. 5)

有床診療所に対するスプリンクラー設備の設置基準について、意見書を消防庁に提出した。消火設備を取り扱う業界団体として、今後も引き続き安全性を追求していく。

### (2) 仕様規定根拠調査 (H26. 5~継続中)

4 年振りに消防法仕様規定根拠調査を再開した。過去に掲げていた調査課題は、根拠を探すのに難航、なかなか成果が上げられない状況となった。時間に余裕があるときに本件を進めることとしており、時間を掛けてじっくり進めていく予定。

### (3) グループホームに対するスプリンクラー設備の設置基準説明会講師対応 (H26. 6)

千葉県のグループホーム団体より、スプリンクラー設備の設置基準の改正について、講師派遣を依頼され、対応した。

### (4) 原子力施設におけるスプリンクラー設備の腐食対策に関する相談 (H26. 6)

原子力発電所に任意で設置するスプリンクラー設備の腐食防止対策について相談があり、湿式・乾式・予作動式の 3 つのタイプに分けて、それぞれの特徴について回答した。

### (5) 屋内消火栓箱等の降下装置についての点検方法の質疑 (H26. 6)

「屋内消火栓設備点検実務マニュアル」の説明が最も分かりやすく、明確なため、当該資料の該当部分を資料提供することとした。

### (6) 継手メーカーからの検討依頼 (H26. 7)

シール剤を事前に塗布している継手について、JIS 規格を逸脱する旨の指摘があり、現場で窮していることから、当工業会から日本建築協会に要望を出して欲しいとの依頼があった。審議の結果、特定メーカーの依頼であること、同様の他社製品は当該メーカーが独自に取り組んで問題を解消していることから、依頼を受けないことにした。

### (7) スプリンクラー設備の機能維持のための工法に関する情報提供 (H26. 7)

地震の揺れでも天井が落下しない耐震金物の紹介があった。具体的には、地震の揺れで M バークリップが外れても、ワイヤー & 専用金物で M バーと野縁受けを結んでいることから、天井が落下しないという工法。審議の結果、そもそも地震の揺れで M バークリップが容易に外れないように工夫すべきではとの意見が大勢を占めた。

### (8) 公共建築工事標準仕様書改訂について (H26. 7)

国交省より「公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) 平成 25 年版」の改訂についての意見募集があった。第一部会の意見を取りまとめ、技術委員会経由で提出した。

### (9) 劣化調査委員会からの審議依頼 (H26. 9~継続中)

劣化調査委員会より、劣化調査データの分析方法や今後の活用・活動等についての審議依頼があった。第一部会では、閉鎖型スプリンクラーヘッド、流水検知装置、消火栓開閉弁について検討を行った。非常に負担のかかる活動なので、調査を継続するのであれば、目的を明確にすることが先決ではないかとの意見や、会員各社から機器劣化情報の提供を受ける仕組みを作り、情報量が多くなった時点で情報活用について検討するのも一手などの意見も出た。最終的に、現時点においては、本活動は継続しないという結論に達した。

**(10) ドレンチャー設備の定期検査基準 (H26.9～H27.1)**

日本建築防災協会が事務局を努める防火設備定期検査研究会に委員を派遣、全7回の会議が開催された。当工業会は、ドレンチャー設備の検査基準案を担当した。建築基準法で定義されているドレンチャー設備は、技術基準が明確に定まっておらず、実績もほとんど無いことから、開放型スプリンクラー設備や水噴霧設備の点検基準を参考に当該検査基準案を作成した。

**(11) 合同委員会 (H26.10)**

本年は、第一部会が幹事当番であり、4月より準備を開始、10月9日にTKP札幌駅カンファレンスセンター会議室で行った。技術委員会、各部会および各委員会から17社23名が参加、向学のために北海道コカ・コーラボトリング(株)札幌工場を訪問、生産ラインおよび自動ラック式倉庫の防災設備など見学した。

**(12) 集熱板の検討 (H26.11～継続中)**

閉鎖型スプリンクラーヘッドの作動性能を確保するための集熱板について、その効果を確認してほしいとの依頼が事務局からあり、検討を開始した。集熱板の効果は、その設置状況によっては効果はかなり薄くなることも想定され、適正に評価する方法の検討が課題となっている。

**(13) 工業会内外意見交換会対応 (H27.1～3)**

工業会内における意見交換会および消防庁との意見交換会の開催に備え、第一部会として取り上げたい議題を検討した。ハウジング形継手を乾式配管に使用する場合の安全性の問題など、複数の検討課題を整理し、意見交換会に諮った。

**3. 関連作業部会**

**(1) 消火設備設計・工事基準書改訂編集WG1**

- ・平成26年度は、全10回のWGが開催された。
- ・スプリンクラー設備設計・工事基準書について、平成27年3月に発刊した。
- ・以上をもって、平成22年度から開始した本WG1の目的を達成、解散した。

**(2) スプリンクラー設備DVD作成WG**

- ・平成26年度に全7回のWGが開催された。
- ・DVDは年度内に完成し、平成27年3月に配付した。
- ・以上をもって、本WGの目的を達成、解散した。

以 上